

へるす・りさーち

『動物由来感染症』に注意しましょう



ズーノーシス・動物由来感染症・人獣共通感染症



□ 動物の病気が人にうつる

さる平成14年の1月、島根県松江にある動物展示（ふれあい）施設において、従業員と一般入場者あわせて十数名がオウム病に感染し、施設が3か月間も閉鎖されるという事件がありました。また15年夏には、兵庫で生シカ肉を食べた4名がE型肝炎を発症しました。いずれも動物のもっている病気が人間にうつった事例ですが、最近こうしたニュースが目立ちます。

□ 200種類にもものぼるズーノーシス

「動物由来感染症」という言葉は動物から人間にうつる病気を示す言葉です。他に「ズーノーシス Zoonosis」や「人獣共通感染症」の呼称もありますが意味するところは同じです。日本脳炎、狂犬病、マラリアなど以前から知られている動物由来感染症に加えて、世界中で新しい動物由来の感染症が次々と発見されており、その数は200近くあります。昨年来大きな問題となっているSARS（重症急性呼吸器症候群）についても、ハクビシンなど、動物からの感染の可能性が指摘されているところです。

□ 人や動物の膨大な移動が背景に

動物由来感染症が増加している背景には地球規模の要因があります。人間のすさまじい移動、動物および加工品の大量の輸出入、ペットブームにより従来見られなかった動物が持ち込まれ、しかもそれが人間と密着して生活する、などの傾向です。また

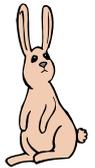
地球温暖化によって熱帯・亜熱帯地域に多い動物由来感染症が温帯地域でも見られる傾向にあり、増加の一因となっています。

□ 「感染症法」にみる動物由来感染症

従来の集団感染予防から社会全体の感染症予防を推進するため、平成11年に感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（略称「感染症法」）が定められました。感染力や予防・治療法の有効性などに基づいて感染症は類型化されていますが、昨年の法改正により、動物由来感染症はその第4類として区分されました。

感染症法の第4類/30疾患

E型肝炎	デング熱
ウエストナイル熱	ニパウイルス感染症
A型肝炎	日本紅斑熱
エキノコックス症	日本脳炎
黄熱	ハンタウイルス肺症候群
オウム病	Bウイルス病
回帰熱	ブルセラ症
Q熱	発しんチフス
狂犬病	ポツリヌス症
高病原性鳥インフルエンザ	マラリア
コクシジオイデス症	野兔病
サル痘	ライム病
腎症候性出血熱	リッサウイルス感染症
炭疽	レジオネラ症
つつが虫病	レプトスピラ症



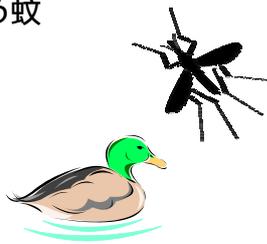
□ 4類感染症について

感染症法では、これらの疾病を診断した場合、医師は保健所に届け出ることでなっています。このデータは毎週、地方感染症情報センターを通じて国へ送信され、全国的な集計が行われています。



4類に指定された30の感染症は動物由来感染症のほんの一部です。ほとんどなじみのない病気もあるでしょう。これらの感染症の病原体はウイルス、細菌、寄生虫などで、宿主「しゅくしゅ」（病原体が住みつく相手）も様々です。昭和初期に至るまで国内では毎年数百～数千人が狂犬病の犠牲になっていました。しかし犬の予防注射と野犬対策を徹底した結果、昭和32年以降国内の患者発生はなくなりました。しかし世界的に見れば、アジアを中心に現在でも毎年5万人以上の方が狂犬病で命を落としており、日本にも海外から狂犬病が侵入する可能性はあるのです。また数年前からアメリカやカナダで流行し年間数百人規模の死者を出しているウエストナイル熱は、多くの種類の野鳥とその血を吸う蚊

との間で「感染サイクル」が成立しており、その感染蚊に刺されることで人間が感染します。感染拡大の原因が「航空機で感染蚊が運ばれたことによる？」のであれば、日本も決して他人事ではありません。名古屋市も昨年より蚊の発生状況や死亡カラスの数の推移について調査を続けています。



最近日本国内で79年ぶりに発生が確認された「高病原性鳥インフルエンザ」もこの4類に属する感染症です。

□ 鳥インフルエンザはどんな病気？

人間のインフルエンザウイルスはA B Cの3型に分けられ、またその表面のタンパクの組み合わせにより多くのA型亜型が存在します。人畜共通であるA型は人間以外にも鳥や豚など広く分布していますが、いま鳥インフルエンザとして問題になっているのは、人間に流行しているインフルエンザとは異なった型の「A/H5N1」が中心です。

□ 人間への感染の心配は？

鳥インフルエンザの感染経路は十分解明されていませんが、渡り鳥のカモ類の仲介が指摘され、これらが滞在する間は散発的な感染は今後も起こりうるものと思われます。しかし鳥インフルエンザは主にフンを介して感染するもので、感染鳥の世話、フンの処理をするなど、濃厚な接触がなければ人間が感染する恐れはほとんどありません。鶏肉などについて言えば、ウイルスは加熱で死滅するので、WHOは70度程度に加熱調理することを推奨しています。また各自治体では、鳥インフルエンザにも有効とされる抗インフルエンザウイルス薬「タミフル」の備蓄にも留意しています。

□ 動物由来感染症を予防するには

以上見てきたように、動物由来感染症には様々な種類があり、中には命にかかわるようなものも含まれています。むやみに心配する必要はありませんが、基本的を守るべき点は次のようなことでしょう。

□ 移して餌を与えるなど、濃厚な接触は避ける

動物に触れたりフンの世話をしたときは必ず手洗いをする

動物の身の回りを清潔に保つ

ペットの健康管理に留意するとともに飼い主が医療機関に受診するときにもペットの飼育状況を医師に伝える

□ 鳥インフルエンザについて市からのお願い

飼っている鳥の健康状態をよく観察し、不安があったら獣医師や保健所、家畜保健衛生所に相談してください

飼育中の鳥を捨てたり、むやみに処分するようなことはしないでください

鶏肉や鶏卵を食べることによって鳥インフルエンザが人間に感染した例はありません

詳しく知りたい方へ／下記のホームページをご覧ください。

☞厚生労働省 結核感染症課「動物由来感染症」(<http://www.forth.go.jp/mhlw/animal/index.html>)

☞独立行政法人 動物衛生研究所 (<http://niah.naro.affrc.go.jp/index-j.html>)